

死刑で「犯罪」は防げるでしょうか？

「少女連続誘拐殺人事件」で死刑判決が出された（4月14日）直後の5月、今度は神戸で、男子小学生が殺害され、遺体が切断されるという悲惨な事件が起こりました。そしてその容疑者として、中学3年生の男子生徒が逮捕されたことは、わたしたちに大きなショックを与えました。

「じいちゃん、人を殺したら死刑になるの？」
「そうや。人を殺したら、自分の命でつぐなわんとな」
「どんなに後悔して反省して二度と悪いことはしませんって言ってもだめなの？」
「世の中はそんなに甘いもんやない。死刑があるから、人を殺したらいかんと世間の人
は思うんじゃ」
「でも、死刑があっても殺人事件は起こってるよ。なぜなの？」
「うるさい子やな。自分で考えな」
死刑は本当に犯罪を減らすのに役立っているのでしょうか。

今、世界の約半数の国で死刑が廃止されたり、執行が停止されていますが、それによって犯罪が増加したという報告はありません。日本でも1993年3月までの3年4ヶ月間死刑の執行のない時期がありました。そのかん犯罪はむしろ減少の傾向にありました。ところが法務省は93年以降、まるで遅れを取り戻すかのように死刑執行をくり返し、この4年間に21名もの死刑を執行しました。今回逮捕された少年は、小学6年の時の作文で『（震災での政府の対応の遅れに関して）たとえ死刑になることがわかっているとしても、何をしたかわからない』と書いたそうです。それが事実とすれば、それは『死刑執行』の記事が何度も新聞の一面に大きく掲載された時期です。それが少年の心にどのような影響を与えたのかはわかりませんが、でも、この社会が少年に教えたのは「どんなことがあっても人を殺してはいけない」ということではなく、「理由があれば人を殺してもいい」ということだったのではないのでしょうか。
死刑は「犯罪」をおさえる・・・むしろ逆ではないのでしょうか。

街を行くみなさん。
この近くに東京拘置所があります。
そしてこの東京拘置所に、死刑を執行する刑場があります。東京拘置所は建替え計画が進められていて高層ビルになるそうですが、死刑がある限り処刑場はどこかに残されま
す。

わたしたちの身近に「死刑」があります。
立ち止まって、いっしょに考えてみませんか。